

氏名(本籍)	Nguyen Luong Hai (ベトナム)
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	甲第 295 号
学位授与年月日	平成 28 年 9 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項
研究科・専攻名	工学研究科・基盤工学専攻
学位論文題目	プロジェクト組織文化が建設プロジェクト履行状況に与える 影響分析ーベトナムの事例 An investigation of the influence of project organizational culture on construction project performance: A study on Vietnam

論文審査	(主査) 高知工科大学	教授	渡邊 法美
	高知工科大学	教授	那須 清吾
	高知工科大学	准教授	五艘 隆志
	高知工科大学	教授	國島 正彦
	香港大学	教授	Steve Rowlinson

審査結果の要旨

1. 論文の評価

ベトナムの建設事業では、品質不良、工期遅延、費用超過等、依然として多くの問題が存在している。これらの問題は広く認識されているにもかかわらず、問題解決の道筋は見えていない。その一因は、問題の原因、並びに対策の効果を定量的に把握できていない点にあると考えられる。

論文申請者の NGUYEN 君は、まずベトナムの公共建設事業の入札について予備的な調査を行い、入札の課題が、手続きの正統性、ガバナンス、文化・行動特性にあるとの結果を得た。そこで、本研究では、建設プロジェクト組織文化に着目し、

1. ベトナム建設プロジェクト組織文化の枠組みの導出
2. プロジェクト特性が POC に与える影響の調査
3. 1.で導いた文化の各次元がプロジェクトパフォーマンスに与える影響の定量的分析

を行うことを目的とした。

研究は、広範な既往文献調査、関係者へのインタビューの後、199 名の実務者にアンケート調査を実施した。過去自分が従事したプロジェクトを一つ選び、当該プロジェクトの特徴、文化的行動の実施度、プロジェクトパフォーマンスについてご回答頂いた。その結果について種々の統計解析を行った。

主な結果は以下の通りである。

第一の目的に関しては、まずベトナムの建設プロジェクト組織における 29 の文化的行動を抽出し、因子分析を行った結果、C1: Goal Alignment & Trust (11 因子), C2: Contractor Commitment (3 因子), C3: Cooperative Orientation (3 因子), C4: Empowerment Orientation, C5: Worker Orientation の 5 つの次元を抽出した。

第二の目的に関しては、5 番目の文化軸である Worker Orientation の実施度は、建物の建築プロジェクトよりも道路等のインフラプロジェクトにおいて、統計的に有意に高いとの結果を得た。この主な一因は、建物の建築では道路等のインフラプロジェクトよりも、重層下請労働がよりに顕著なるからであると考えられる。この結果は、因子分析の結果がベトナム建設現場の実態を正確に反映していることを示唆していると考えられる。

第三の目的に関しては、プロジェクトパフォーマンスを 5 つの文化次元によって表現する重回帰分析を行った。その結果、C2: Contractor Commitment が、極めて大きな影響を与えるとの結果を得た。今回のアンケート調査では、「実務者は、発注者が最も大きな影響を与える主体と認識している」との結果

も得た。これら二つの結果は、実務者の認識と実態との間に大きな差異があることを示している。なお重回帰分析の実施に際しては、回帰式の採択基準として重回帰係数の他に、BIC (Bayesian Information Criteria)と Post Probability Value を併用し、回帰式の優位性の厳密な検討を行った。

以上を総括すると、本研究は、カオス的とさえ言えるベトナム建設プロジェクトのパフォーマンスの改善に貢献するために、十分な文献調査と丁寧な統計解析を行い、各問い（研究目的）への解答・解決策を検討・提示した。特に、第三の目的である、プロジェクト組織文化がプロジェクトパフォーマンスに与える影響を定量的に分析した点は、建設マネジメント研究の新しい学術的試みとして評価される。また、Contractor Commitment（コントラクター真摯度）がパフォーマンスに極めて大きな影響を与えるとの分析結果は、ベトナム建設業界への有効な指針になると考えられる。今後は、今回の解答の検証を行うことが望まれる。

研究業績も要求条件を満たしている。以上から、本論文は合格と判定された。

2.審査の経過と結果

- (1) 平成28年7月6日 博士後期課程委員会で学位論文の受理を決定し、5名がその審査委員として指名された。
- (2) 平成28年8月23日 公開論文審査発表会及び最終試験を実施した。
- (3) 平成28年9月5日 博士後期課程委員会で学位授与を可とし、教育研究審議会で承認された。